

# 第1回 構造改革シンポジウムー構造改革の 取組事例紹介ー 開催

平成24年6月14日に企画委員会主催「第1回構造改革シンポジウムー構造改革の取組事例紹介」がJJK会館において開催され、123名が参加した。

JISAでは、近年急速に進む事業環境変化に対応するために、情報サービス業界の構造改革として、会員各社に共通する業界レベルの課題への取組に重点をおいて推進している。

本シンポジウムでは、視点を変えて、自社改革の必要性の認識をもった会員各社に、具体的な取組のヒントを提供することを狙いとして開催した。

## プログラム

### オープニング・スピーチ

JISAの業界構造改革について

企画委員会委員長 島田 俊夫 氏

#### ①「サービス化」へのシフトに特徴のある事例(1)

受託開発からレセプトの電子化サービスに至る事業展開と特許取得

(株)データホライゾン代表取締役社長 内海 良夫 氏

#### ②「サービス化」へのシフトに特徴のある事例(2)

サービスメニュー方式による保守サービスの提供

アイエックス・ナレッジ(株)

サービスインテグレーション事業部長 神津 利男 氏

#### ③「パートナー化」へのシフトに特徴のある事例

新しい契約形態での受託開発サービス ～価値創造契約の提案と実際について～

(株)永和システムマネジメント サービスプロバイディング事業部アジャイルグループ主任 市谷 聡啓 氏

#### ④「知識集約化」へのシフトに特徴のある事例

ユビキタス勤務に向けたBYOD/BYOCへの挑戦

(株)シーエーシー 取締役兼執行役員

ソーシャルICT本部長 萩原 高行 氏

### クロージングスピーチ

次回へ向けての期待

企画委員会前企画部会長 椎野 孝雄 氏

当日は、まず、島田俊夫企画委員会委員長より、オープニングスピーチが行われた。

島田委員長は、本年度の事業計画で示した、

(1) 重大な岐路に立つ情報サービス産業

(2) 不可避の業界構造改革を掲げ、現下の業界を取り巻く環境について改めて共有化を図る説明を行った。次に、この環境変化への対応の仕方は個社の判断である一方、業界構造上の課題は業界組織的な改革が必要とし、専門的アウトソーシング需要の創生および顧客価値創出能力の先取・先進化が必要であると訴えた。

JISAの委員会活動としては、構造変化の4つのシフトに基づくアクションプランの着実な推進を強調した。

シンポジウム第1回の今回の開催の狙いとしては、

- (1) 他者を知り、気付きを惹起する
- (2) 行動可能であるという感覚を持つ

を示し、座して待つでは変化に耐えられないことと、身近な例を参考に自ら行動を起こすことの重要性を訴えた。

今回は、4つの事例紹介が紹介された。これらの事例は、環境変化の4つのシフトの観点から、特に中堅中小会員企業の参考に資することを目指して、企画部会において選んだものである。

なお、事例の紹介にあたっては、上記の狙いを果たすための試みとして、一般的な講演会のスタイルを採らず、講演時間は短くし、事例毎に質問を記入するシートを配付して、参加者に事例について考えてもらい、これをもとに「事例から学ぶコミュニケーション」と銘打った質疑応答の機会を設定した。これにより参加者が主体的に参加し、シンポジウムが活性化することを目指した。

シンポジウムの最後には、椎野孝雄企画委員会前企画部会長がクロージングスピーチを行った。椎野前企画部会長は、本日のまとめとして、次のように第1回シンポジウムを締め括った。

構造改革の取組は緒についたばかりであり、どんなことに取り組めば正解であるかは誰も答えをもっていない。積極的に自社変革に取り組むことが大事である。次回以降のシンポジウムは、その取組状況や成果を発表していく機会としていくことが望ましい。

このシンポジウムの模様は、JISA 会報(秋号)で紹介する予定である。

(田中)